

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10331

研究課題名(和文) 生命を脅かす疾患に直面した患者のSDMを支える多職種協働意思決定支援モデルの構築

研究課題名(英文) Creating an Interprofessional Collaborative Decision Support Model to Support SDM for Patients Facing Life-Threatening Diseases

研究代表者

稲垣 範子 (INAGAKI, Noriko)

摂南大学・看護学部・講師

研究者番号：90782714

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、生命を脅かす疾患のなかでも重症心不全患者に焦点を当て、治療選択におけるShared decision-making (SDM)を支える多職種協働意思決定支援モデルの柱となる患者の特性と看護師の役割を明らかにした。急性・重症患者看護専門看護師への半構造化面接により、看護師のSDM参画は不十分ながらも、看護独自の取り組みが、多職種協働による意思決定支援へとつながり、患者・家族とのSDMを支える構造になっていることを見出した。さらに再分析により明らかにした重症心不全患者の特性と看護師が担う意思決定支援の役割は、多職種協働による意思決定支援を発展させるものであると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでのSDMモデルは、患者と医師の関係性が中心であり、多職種が連携してSDMを支えるモデルについては検討が始まったばかりである。本研究は、生命を脅かす疾患に直面した重症患者・家族に関わるクリティカルケア領域の医療者が協働してSDMを支えるモデルの可能性を示唆するものである。特に看護師独自の支援が発揮されることで、生命を脅かす疾患に直面した患者・家族のSDM参加を促進し、価値を反映した意思決定と合意形成を導くことが期待できる。

研究成果の概要(英文)：Focusing on patients with severe heart failure, among other life-threatening diseases, this study identified patient characteristics and nurses' roles as pillars of an interdisciplinary collaborative decision support model that supports shared decision-making (SDM) during treatment decisions. Through semi-structured interviews with certified nurse specialists in critical care nursing, I found that although nurses' participation in SDM was insufficient, their efforts led to interdisciplinary collaborative decision-making support and a structure that supported SDM with patients and families. Furthermore, the characteristics of patients with severe heart failure and the role of nurses in decision-making support, which were clarified through reanalysis, were considered to develop decision-making support through interdisciplinary collaboration.

研究分野：臨床看護学

キーワード：シェアード・ディジションメイキング 看護師参画 多職種連携 重症心不全患者

1. 研究開始当初の背景

(1) Shared decision-making とは

医療における意思決定モデルの Shared decision-making (SDM) は、医療者が決めた治療方針の説明に患者が同意する Informed consent (IC) の枠組みを越えて、患者が自分の希望や価値についての情報を医療者に提供し、それらを反映させた治療方針を決定するために医療者が情報提供するという双方向性の情報共有を行うもので、患者の価値を共有する合意形成の方法として注目されている。生命の危機的状況にある患者を対象とするクリティカルケア領域においても SDM は、重症心不全患者¹⁾や、集中治療室での意思決定²⁾の手段として推奨されているが、国内のクリティカルケア分野での SDM の取り組みはほとんど報告がない。

(2) 多職種協働での意思決定支援と看護師の役割

SDM では、患者と医師との関係性について述べられているものがほとんどであるが、重症患者のベッドサイドで働く看護師は、患者が自身の価値を見つめなおす機会に立ち会いやすく、価値を引き出しやすい立場にあると考えられ、医師・看護師などが協働することは患者中心の医療の実現に欠かせない。患者だけでなく、家族・医師・看護師など、複数の価値をすり合わせ、合意形成へと導く、専門職間連携協働 (Interprofessional) での SDM モデルを Légaré ら³⁾、Michalsen ら⁴⁾が開発している。

(3) 生命を脅かす疾患に直面する患者の治療選択

生命を脅かす疾患には様々な種類があるため、本研究では、治療結果に対する不確実性が高く、複雑な治療選択が求められる代表的な疾患である重症心不全患者の SDM¹⁾に焦点化することとした。様々な職種への調査の前に、まずは看護師の視点からみた多職種連携での SDM の現状を明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1) 生命を脅かす疾患である重症心不全患者に焦点を当て、患者・家族と医療者の治療選択における SDM プロセスと SDM への看護師参画の実態を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 多職種連携による SDM に関する文献レビュー

多職種連携による SDM の研究動向と課題について、国内文献 (医中誌 web)、海外文献 (MEDLINE、CHINAHL) を用いてナラティブに文献レビューを実施した。

(2) 患者と医療者の共有意思決定プロセスの現状と課題の分析

重症心不全患者の治療選択における SDM への看護師参画について、半構造化面接調査を実施した。研究対象者は、公益社団法人日本看護協会認定の急性・重症患者看護専門看護師 (certified nurse specialist in critical care nursing: CCNS) 10 名であった。質的データの分析は全体像を構造化することができるとされる質的統合法 (KJ 法) を選択した。個別分析の後に、総合分析を行い、最終的に 5~7 つのテーマに集約されるまで展開し、集約されたグループを構造化し、各グループを代表するシンボルマークを付けた。

4. 研究成果

(1) 重症心不全患者の治療選択における SDM および SDM への看護師参画の実態

CCNS10 名への半構造化面接調査を実施し、質的統合法 (KJ 法) にて分析した結果、以下のテーマからなる全体像が明らかになった⁵⁾。【SDM に参画できていない看護師が直面している現状：多職種が活躍する中で試されている看護のアイデンティティ】、【多職種からの活動理解に向けた CCNS 自らの看護の取り組み：患者・家族の SDM 参画の推進と意思決定後のフォロー】、

【クリティカルケア看護師へのアドバンス・ケア・プランニングや SDM 参画に向けた働きかけ：意思決定支援の本質の理解に基づく実践のリード】、【重症心不全患者の苦悩に向き合うクリティカルケア看護師への SDM 参画に向けた働きかけ：生へも死へも、できる限りのケア提供を諦めない力のリード】として示される、これら ~ の看護としての取り組みを行ったうえで、

【医療チームの意思決定パターン革新に向けた取り組み：多職種チームの総意で判断できるようになるための試行錯誤】という多職種で構成される医療チームによる意思決定へと繋がっていた。このような ~ により、医療チーム内での方針検討、合意形成をはかったうえで、【補助人工心臓・心臓移植に進む場合の支援：補助人工心臓・移植への覚悟を問い、治療後に何が起ころうと揺るがない継続的支援】、【心臓移植に進まず緩和を目指す場合の支援：心不全末期の苦痛緩和を保障する院内外の連携による支援】という 2 つの側面から重症心不全患者とその家族を支援していた⁵⁾。本研究で明らかとなった重症心不全患者の治療選択における SDM の実態は、Michalsen らによる IP-SDM の構造⁴⁾と同様で、患者・家族との SDM の前に、まず医療チームで検討し、方針をまとめるというプロセスが重視されていた。医療チームで方針をまとめる際にも、看護師が参画し、看護の立場から意見を出すことが、その先の SDM にもつながっていると考えられた。

<引用文献>

- 1) Allen LA, Stevenson LW, Grady KL, Goldstein NE, Matlock DD, Arnold RM, et al. Decision making in advanced heart failure: a scientific statement from the American Heart Association. *Circulation*. 2012;125: 1928-1952. doi:10.1161/CIR.0b013e31824f2173
- 2) Kon AA, Davidson JE, Morrison W, Danis M, White DB. Shared Decision Making in ICUs: An American College of Critical Care Medicine and American Thoracic Society Policy Statement. *Crit Care Med*. 2016;44: 188-201. doi:10.1097/ccm.0000000000001396
- 3) Légaré F, Stacey D, Gagnon S, Dunn S, Pluye P, Frosch D, et al. Validating a conceptual model for an inter-professional approach to shared decision making: a mixed methods study. *J Eval Clin Pract*. 2011;17: 554-564. doi:10.1111/j.1365-2753.2010.01515.x
- 4) Michalsen A, Long AC, DeKeyser Ganz F, White DB, Jensen HI, Metaxa V, et al. Interprofessional Shared Decision-Making in the ICU: A Systematic Review and Recommendations From an Expert Panel. *Crit Care Med*. 2019;47: 1258-1266. doi:10.1097/ccm.0000000000003870
- 5) 稲垣範子. 重症心不全患者の治療選択におけるシェアード・ディシジョンメイキングへの看護師参画に対する急性・重症患者看護専門看護師の認識. *日本看護科学会誌*. 2020;40: 544-552. <https://doi.org/10.5630/jans.40.544>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 稲垣範子	4. 巻 40
2. 論文標題 重症心不全患者の治療選択におけるシェアード・ディジションメイキングへの看護師参画に対する急性・重症患者看護専門看護師の認識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 544 ~ 552
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.40.544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------